

三重県経済の現状と見通し<2024年5月>

1. 景気判断一覧表

部門	個別項目	水準評価 ※1	基調判断(前月比較)※2	
				詳細
総括判断	景気の現状			一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる 住宅投資に弱さがみられるものの、設備投資は持ち直しているなど、持ち直しの動きがみられる。
家計部門	個人消費			足踏み 大型小売店販売額(全店ベース)は、3か月連続の前年比増加
	住宅投資			弱含んでいる 住宅着工戸数は、2か月連続の前年比減少
	観光			回復に向けた動き 外国人宿泊者数は、24か月連続の前年比増加
	雇用・所得			概ね横這い 新規求人倍率(季節調整値)は、2か月振りの前月比上昇
企業部門	企業活動			足踏み 鉱工業生産指数は、3か月連続の前年比低下
	企業倒産			悪化しつつある 倒産件数は、4か月振りの前年比増加
	設備投資			持ち直しの兆し 民間非居住建築物着工面積は、3か月振りの前年比増加
海外部門	輸出			持ち直している 四日市港通関輸出額は、9か月連続の前年比増加
公共部門	公共投資			持ち直しつつある 公共工事請負金額は、2か月振りの前年比増加
その他	物価			上昇している 津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、27か月連続の前年比上昇

当面の見通し 物価高や世界経済の不透明感から、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し
生産活動の回復やインバウンド需要の持ち直しが期待される一方、物価高や米国の金融引き締め継続など世界経済を巡る不透明感は強く、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し。

※1「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、

☀:晴、☀|☁:晴～曇、☁:曇、☁|☂:曇～雨、☂:雨、を示す。

※2「基調判断(前月比較)」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、

↗:上方修正、→:据え置き、↘:下方修正を示す。

(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先	三十三総研 調査部 古橋
	電話:059-354-7102 Mail:33ir@33bank.co.jp

2. 個別部門の動向：家計部門

個人消費	水準評価		⇒	詳細	足踏み
	基調判断	前月比較			

《現状》

- 個人消費は、足踏み。
- 個人消費の動向を支出者側からみると、3月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比▲37.6%と2か月振りの減少(図表1)。勤労者世帯可処分所得(津市)は同+18.5%と5か月連続の増加(前掲図表1)。
- 個人消費の動向を販売者側からみると、3月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースで前年比+3.3%と3か月連続、既存店ベースも同+4.0%と2か月連続の増加(図表2)。全店ベースを商品別にみると、衣料品(同▲7.0%)が2か月連続で減少した一方、飲食料品(同+3.5%)が12か月連続の増加。
- 4月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、5,222台(前年比▲7.7%)となり、前年比で4か月連続の減少(図表3)。車種別にみると、普通車(同+8.9%)が3か月振りに増加した一方、小型車(同▲18.7%)が8か月連続、軽乗用車(同▲18.8%)が5か月連続で減少。一部の自動車メーカーの不正問題などをを受け、販売台数が減少したものと見られる。

《見通し》

- 東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、3月の家計部門の水準は49.0と前月(51.9)から下落し、好不況の分かれ目となる50を3か月振りに下回った。2~3か月先の先行きに対する判断DIについては、50.6と前月(54.0)から下落するものの、好不況の分かれ目の50を4か月連続で上回った。引き続き、インバウンドの回復に期待が持てる一方、物価上昇が懸念材料に。

◆3月 勤労者世帯・消費支出

○ 384千円 前年比 ▲37.6% (2か月振りの減少)

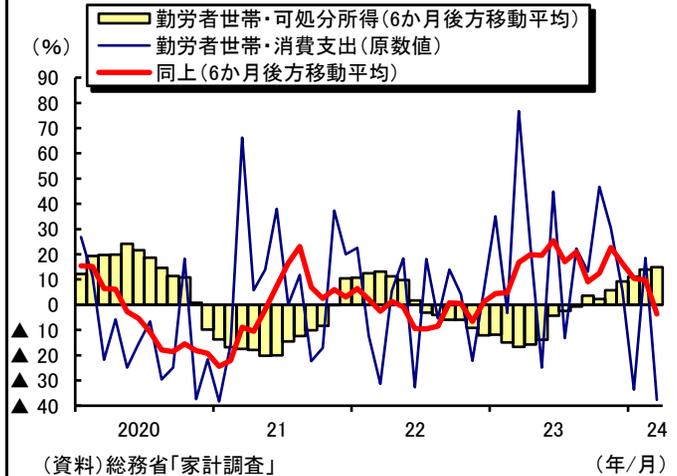
◆3月 大型小売店販売額

○ 全店 前年比 +3.3% (3か月連続の増加)
○ 既存店 前年比 +4.0% (2か月連続の増加)

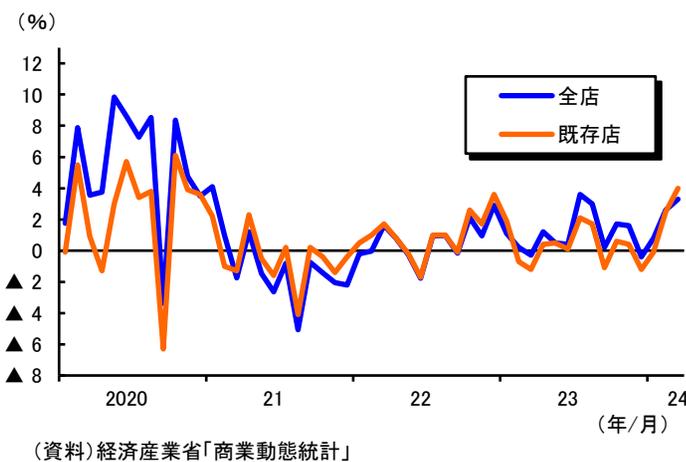
◆4月 新車乗用車販売台数<含む軽>

○ 5,222台 前年比 ▲7.7% (4か月連続の減少)
・普通車 2,464台 前年比 +8.9% (3か月振りの増加)
・小型車 934台 前年比 ▲18.7% (8か月連続の減少)
・軽乗用車 1,824台 前年比 ▲18.8% (5か月連続の減少)

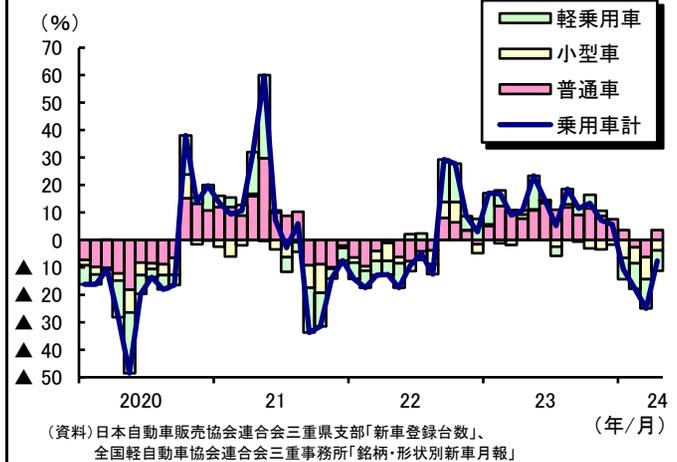
図表1 津市消費支出等<前年比>



図表2 大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



住宅投資	水準評価		☁️☔		
	基調判断	前月比較	↘	詳細	弱含んでいる

《現状》
 ○住宅投資は、弱含んでいる。
 ○3月の住宅着工戸数は、635戸(前年比▲20.9%)となり、前年比で2か月連続の減少(図表4)。利用関係別にみると、持家(同+0.6%)が8か月振りに増加したものの、貸家(同▲46.7%)が3か月連続、分譲住宅(同▲4.6%)が2か月連続の減少。

《見通し》
 ○先行きは資材価格の高止まりや人件費の高騰に伴う住宅価格の上昇、金融政策の変更に伴う住宅ローン金利の上昇懸念が住宅投資の抑制要因となる可能性も。

◆3月 住宅着工戸数

○ 635戸	前年比 ▲20.9%	(2か月連続の減少)
・持家	352戸	前年比 +0.6% (8か月振りの増加)
・貸家	195戸	前年比 ▲46.7% (3か月連続の減少)
・給与住宅	5戸	前年比 全増 (2か月連続の増加)
・分譲住宅	83戸	前年比 ▲4.6% (2か月連続の減少)

図表4 新設住宅着工戸数<前年比>

(資料)国土交通省「建築着工統計」 (年/月)

観光	水準評価		☁️		
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	回復に向けた動き

《現状》
 ○観光は、回復に向けた動き。
 ○2月の三重県内施設延べ宿泊者数は、655千人泊(前年比+25.6%)となり、前年比で2か月連続の増加(図表5)。外国人宿泊者数は15千人泊(同+132.4%)と、前年比で24か月連続の増加。

《見通し》
 ○2024年のゴールデンウィーク期間(2024年4月27日から5月6日までの10日間)の県内主要観光施設(23施設)の観光入込客数は延べ2,067,690人となり、比較可能な21施設における1日あたりの入込客数はコロナ前の2018年比で79.9%まで回復。

◆2月 県内施設延べ宿泊者数

○ 655千人泊	前年比 +25.6%	(2か月連続の増加)
・外国人	15千人泊	前年比 +132.4% (24か月連続の増加)

図表5 三重県内施設延べ宿泊者数

(資料)国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」 (年/月)

雇用・所得	水準評価				
	基調判断	前月比較	⇒	詳細	概ね横這い

＜現状＞

- 雇用・所得情勢は、概ね横這い。
- 3月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.22倍(前月差▲0.02ポイント)と2か月連続の低下。新規求人倍率(季節調整値)は、1.98倍(同+0.15ポイント)と2か月振りの上昇(図表6)。
- 3月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比▲8.2%と15か月連続の減少(図表7)。業種別にみると、製造業(同▲18.7%)では、生産用機械(同+27.9%)や電気機械(同+30.6%)が増加した一方、輸送用機械(同▲41.8%)や金属製品(同▲31.8%)などが減少。非製造業では、医療、福祉(同+4.8%)が増加した一方、建設業(同▲15.3%)や宿泊業、飲食サービス業(同▲28.1%)などが減少。
- 2月の所定外労働時間指数は、前年比▲3.9%と20か月連続の低下。名目賃金指数(同+2.1%)は6か月連続、きまって支給する給与(同+1.3%)は8か月連続で上昇(図表8)。

＜見通し＞

- 所得については、足元の物価高を踏まえたベアの広がりや最低賃金の上昇、人手不足感の深刻化を受けて幅広い業種で賃金上昇が期待される。ただし、収益環境が悪化している中小企業で慎重な賃金設定スタンスが維持されることから、物価上昇を上回る賃金上昇には至らない見通し。
- シャープの液晶事業の縮小方針を受けて、液晶パネルを製造する亀山工場がある亀山市は従業員への影響についての情報収集を実施。シャープ側より亀山工場では人員削減の影響はないものの、生産量を段階的に減らしていく方針であることを聴取。引き続き今後の動向には注意が必要。

◆3月 求人倍率＜季節調整値＞

- 有効求人倍率 1.22倍
前月差 ▲0.02ポイント (2か月連続の低下)
- 新規求人倍率 1.98倍
前月差 +0.15ポイント (2か月振りの上昇)

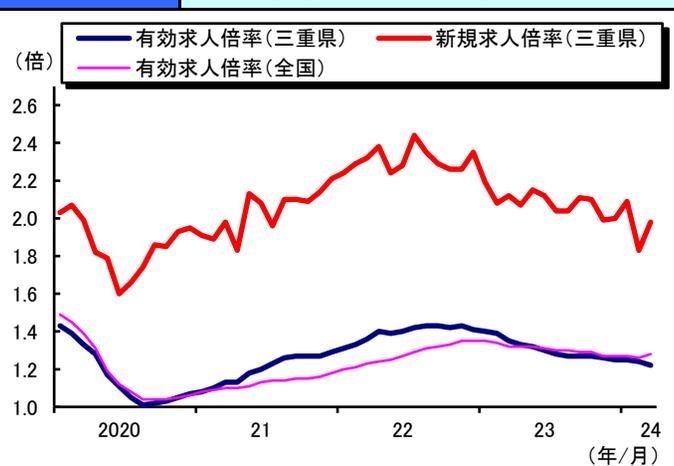
◆3月 新規求人数＜学卒・パートタイム除く＞

- 前年比 ▲8.2% (15か月連続の減少)

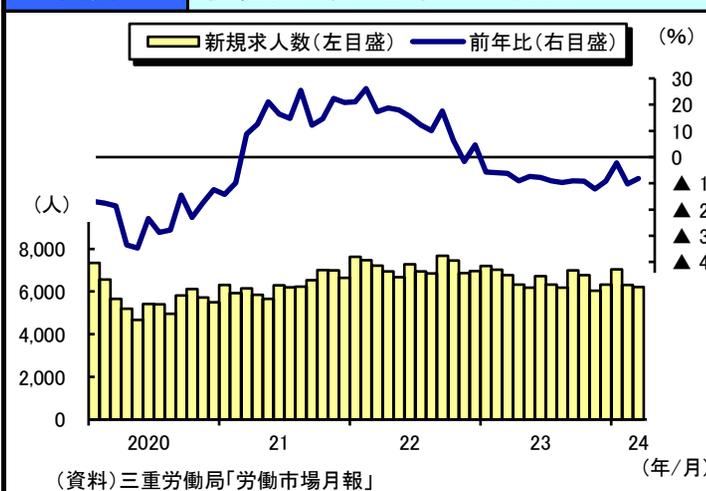
◆2月 労働時間・賃金指数＜調査産業計＞

- 所定外労働時間指数
前年比 ▲3.9% (20か月連続の低下)
- 名目賃金指数
前年比 +2.1% (6か月連続の上昇)
- ・きまって支給する給与
前年比 +1.3% (8か月連続の上昇)

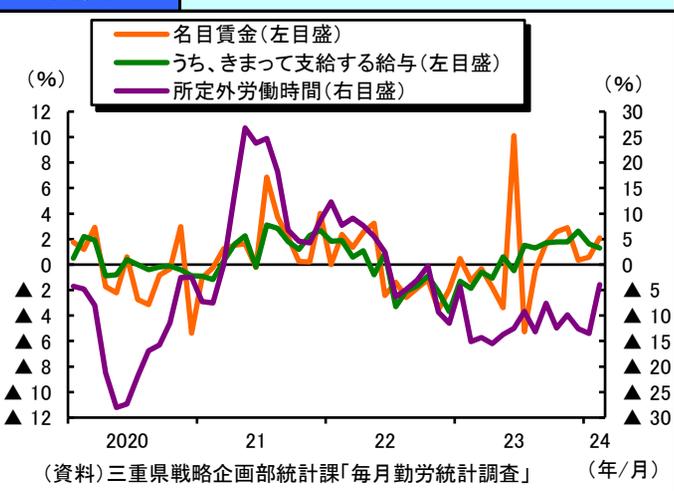
図表6 有効・新規求人倍率＜季節調整値＞



図表7 新規求人数＜学卒・パート除く＞



図表8 労働時間・賃金指数＜調査産業計、前年比＞



3. 個別部門の動向:企業部門

企業活動	水準評価		⇒	詳細	足踏み
	基調判断	前月比較			
<p>《現状》</p> <p>○企業の生産活動は、足踏み。</p> <p>○3月の鉱工業生産指数は、前年比▲11.0%と3か月連続の低下(図表9)。業種別にみると、電子部品・デバイス工業(同+49.8%)が上昇した一方、化学工業(同▲46.4%)や汎用・生産用・業務用機械工業(同▲28.0%)などが低下。</p> <p>《見通し》</p> <p>○先行き生産は、持ち直しの傾向となる見通し。</p> <p>○電子部品・デバイスは、キオクシアが世界的な半導体関連需要の低迷により、2022年10月より半導体の製造に欠かせない材料である基板(ウエハー)の投入量を計画比で3割削減する生産調整を続けていたが、半導体市場の改善により、需要次第では9割程度の稼働率まで戻す見通し。</p> <p>○元旦に発生した能登半島地震による部品不足を受け、自動車の生産台数が減少していたものの、部品不足は解消しつつあり、今後は回復に向かう見通し。</p>					
<p>◆3月 鉱工業生産指数<2020年=100></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 97.0 前年比 ▲11.0% (3か月連続の低下) ・汎用・生産用・業務用機械工業 前年比 ▲28.0% (7か月連続の低下) ・電子部品・デバイス工業 前年比 +49.8% (18か月振りの上昇) ・輸送機械工業 前年比 ▲5.9% (2か月連続の低下) ・化学工業 前年比 ▲46.4% (2か月連続の低下) 			<p>図表9 鉱工業生産指数<前年比></p> <p>(資料)三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」 (年/月)</p>		

企業倒産	水準評価		⇒	詳細	悪化しつつある
	基調判断	前月比較			
<p>《現状》</p> <p>○企業倒産は、悪化しつつある。</p> <p>○4月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は10件(前年比+7件)と4か月振りの増加。負債総額は4,416百万円(同+3,584百万円)と2か月連続の増加(図表10)。</p> <p>《見通し》</p> <p>○「ゼロゼロ融資」利用後の倒産は、2023年1月開始の「コロナ借換保証」など、金融機関の柔軟なリスク対応によって減少の動きも見られる一方、支援策の副作用で生じた過剰債務など、根本的な問題は解消していない点に留意が必要。物価高や人件費の上昇などコスト負担が増加しており、収益悪化が続くと企業倒産は増勢基調をたどる懸念も。</p>					
<p>◆4月 企業倒産</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 倒産件数 10件 前年比 +7件 (4か月振りの増加) ○ 負債総額 4,416百万円 前年比 +3,584百万円 (2か月連続の増加) 			<p>図表10 倒産件数・負債総額<負債総額1,000万円以上></p> <p>(資料)㈱東京商工リサーチ津支店 (年/月)</p>		

設備投資	水準評価				
	基調判断	前月比較	↗	詳細	持ち直しの兆し
<p>◀現状▶</p> <p>○企業の設備投資は、持ち直しの兆し。</p> <p>○3月の民間非居住建築物着工床面積は、88千㎡（前年比+122.5%）と前年比で3か月振りの増加。4月の貨物車登録台数（除く軽）は、305台（同▲5.3%）と前年比で6か月連続の減少（図表11）。</p> <p>◀見通し▶</p> <p>○2024年1～3月期の法人企業景気予測調査によると、県内企業の2023年度設備投資見込みは、全産業で前年度比+45.7%の増加となっており、投資マインドは改善傾向に。なお、世界経済の減速や円安に伴う原材料価格高騰による収益圧迫が設備投資を抑制する懸念もあり、今後の動向に注視が必要。</p> <p>○業務用食材の製造、卸売、貿易を行うあづまフーズ（本社菰野町）の新工場が完成し、4月1日から操業を開始。総事業費は35億円。隣にある本社工場と2工場態勢で生産体制を強化した。新工場に事業所を移し、総勢93人が従事する。</p>					
<p>◆3月 民間非居住建築物着工床面積</p> <p>○ 88千㎡ 前年比 +122.5% （3か月振りの増加）</p> <p>◆4月 貨物車登録台数</p> <p>○ 305台 前年比 ▲5.3% （6か月連続の減少）</p>			<p>図表11 設備投資関連指標<前年比></p> <p>(資料) 国土交通省「建築着工統計」、日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>		

4. 個別部門の動向: 海外部門

輸出	水準評価				
	基調判断	前月比較	→	詳細	持ち直している
<p>◀現状▶</p> <p>○輸出は、持ち直している。</p> <p>○4月の四日市港通関輸出額は、1,012億円（前年比+42.0%）となり、前年比で9か月連続の増加（図表12）。品目別にみると、有機化合物（同▲46.2%）や自動車の部分品（同▲5.0%）などが減少した一方、石油製品（同+344.7%）や乗用車（同+29.8%）などが増加。</p> <p>◀見通し▶</p> <p>○半導体不足などの供給制約の緩和を受けた自動車関連の復調が輸出を押し上げる見通し。もともと、中国経済の回復の遅れや米中対立など地政学的リスクの高まりが、中国向け輸出を押し下げる懸念材料に。</p>					
<p>◆4月 四日市港通関輸出額</p> <p>○ 1,012億円 前年比 +42.0% （9か月連続の増加）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石油製品 166億円 前年比 +344.7% （2か月連続の増加） ・有機化合物 32億円 前年比 ▲46.2% （2か月連続の減少） ・電気回路等の機器 84億円 前年比 +8.6% （15か月連続の増加） ・乗用車 96億円 前年比 +29.8% （9か月連続の増加） ・自動車の部分品 72億円 前年比 ▲5.0% （5か月連続の減少） ・科学光学機器 5億円 前年比 ▲44.8% （2か月連続の減少） 			<p>図表12 四日市港通関輸出額<前年比></p> <p>(資料) 名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p>		

5. 個別部門の動向:公共部門

公共投資	水準評価		⇒	詳細	持ち直しつつある
	基調判断	前月比較			
<p>《現状》</p> <p>○公共投資は、持ち直しつつある。</p> <p>○4月の公共工事請負状況をみると、請負件数は129件（前年比▲12.8%）と2か月連続の減少。請負金額は268億円（同+38.8%）と2か月振りの増加（図表13）。請負金額を発注者別にみると、市町（同+127.8%）や県（+15.4%）が増加した一方、国（同▲46.9%）や独立行政法人等（同▲13.4%）が減少。</p> <p>《見通し》</p> <p>○三重県の2024年度当初予算案で、防災減災・県土強靱化分として前年度比+4.5%（26億円）の598億円を計上。近鉄四日市駅周辺の「バスタプロジェクト」や四日市港北埠頭の国際物流ターミナル整備事業も長期的な押し上げに作用する見込み。</p>					
<p>◆4月 公共投資</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公共工事請負件数 129件 前年比 ▲12.8% （2か月連続の減少） ○ 公共工事請負金額 268億円 前年比 +38.8% （2か月振りの増加） 					
<p>図表13 公共工事請負金額</p> <p>(資料)東日本建設業保証㈱三重支店</p>					

6. 個別部門の動向:その他

物価	水準評価		⇒	詳細	上昇している
	基調判断	前月比較			
<p>《現状》</p> <p>○物価は、上昇している。</p> <p>○4月の津市消費者物価指数（生鮮食品を除く）は前年比+1.5%と27か月連続の上昇（図表14）。光熱・水道（同▲5.4%）が下落した一方、生鮮食品を除く食料（同+2.9%）や教養娯楽（同+6.0%）など、多くの項目で上昇。</p> <p>《見通し》</p> <p>○原油価格上昇の影響や企業の価格転嫁が想定を上回る水準で進んでおり、今後も消費者物価は上昇が続く見通し。2023年1月使用分から実施されてきた政府の物価高対策による電気代・ガス代の負担軽減措置について、2024年5月の使用分までで終了する方向で調整に入っており、今後の動向に注視が必要。</p>					
<p>◆4月 消費者物価指数<生鮮食品を除く、2020年=100></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 106.4 前年比 +1.5% （27か月連続の上昇） ・食料（生鮮食品を除く） 前年比 +2.9% （33か月連続の上昇） ・住居 前年比 ▲0.3% （2か月連続の下落） ・光熱・水道 前年比 ▲5.4% （13か月連続の下落） ・交通・通信 前年比 +1.4% （22か月連続の上昇） ・教養娯楽 前年比 +6.0% （16か月連続の上昇） 					
<p>図表14 津市消費者物価指数<前年比></p> <p>(資料)総務省「消費者物価指数」</p>					



1. 三重県 合成樹脂リサイクルの仲介システムの稼働を開始

- 4月1日、三重県は合成樹脂(プラスチック)のリサイクルを仲介するシステムの稼働を始めた。事業者が排出するプラスチックの種類や量などの情報と、リサイクル会社が手掛ける再生方法などの情報を共有し、円滑なリサイクルを促進する。
- 国内の合成樹脂リサイクルは焼却時の熱を利用する「サーマルリサイクル」が主流である。三重県でも同様のリサイクル方法が多く、温暖化ガスの発生原因となっている。
- 「三重県プラスチックリサイクルマッチングシステム」(みえプラ)は、まず排出する事業者が量や汚れ具合などの情報を入力。これをリサイクル業者が閲覧し、処分フローを示す。リサイクル業者の製造した再生材や、その利用情報も共有できる。登録や利用料は無料。三重県は2026年度までに100事業者以上の登録を目指している。

2. F1グランプリ 初の春開催に最多22万9,000人のファン

- 4月7日、三重県鈴鹿市の鈴鹿サーキットで初の春開催となるF1日本グランプリ決勝が行われた。大会期間3日間のサーキット来場者数は計22万9千人と2009年に鈴鹿で日本グランプリが開催されて以降最多の来場者数となった。
- 5日に鈴鹿市周辺自治体の住民を対象にした無料招待を実施したこと、同日の練習走行で、昨年F2で年間4位の成績を修めたホンダ育成ドライバーの岩佐歩夢選手も登場したことから3日間の合計来場者数は昨年よりも7千人増加したとみられる。
- ホンダモビリティランドの斎藤毅社長は「初の春開催となる日本グランプリを満開の桜のなかで開催できたことをうれしく思う。これからもモータースポーツの楽しさ、感動をより多くの方に知っていただけるように努力を続けていきたい」と話した。

3. 温泉複合施設「いなべ阿下喜ベース」 11日オープン

- 4月11日、三重県いなべ市北勢町阿下喜に、「自然と健康」をテーマにした温泉複合施設「いなべ阿下喜ベース」がオープンした。市の指定管理者が運営していた温浴施設「阿下喜温泉あじさいの里」を昨年6月から改修し、天然温泉に加えて北欧風のサウナ、コンテナの宿泊棟を設けた。
- 施設は温浴、宿泊、レストランの三つの棟で構成する。全国で温泉施設を再生する「温泉道場」(埼玉県)の子会社で、四日市市の温浴施設「おふろcafe湯守座」を手がける「旅する温泉道場」(四日市市)が運営する。
- 新裕之支配人は「地元の人にも、遠方の人にも愛される施設になれば」と話した。

景気指標

三十三総研
2024/5/30

<三重県>

(注) ()内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2022年	2023年	2023年			2024年	2023年	2024年			
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	12月	1月	2月	3月	4月
大型小売店販売額(全店)	(0.7)	(1.1)	(0.7)	(2.3)	(0.9)	(2.2)	(▲ 0.4)	(0.8)	(2.6)	(3.3)	
同 (既存店)	(1.0)	(0.0)	(0.3)	(0.9)	(0.0)	(0.0)	(▲ 1.2)	(▲ 0.1)	(2.5)	(4.0)	
新車販売台数(軽を除く、台)	48,182 (▲ 7.3)	54,820 (13.8)	11,825 (16.7)	13,377 (17.1)	13,454 (10.4)	13,618 (▲ 15.8)	4,377 (11.0)	4,038 (▲ 4.4)	4,176 (▲ 16.1)	5,404 (▲ 22.4)	3,790 (▲ 0.6)
うち乗用車販売台数(台)	42,059 (▲ 7.6)	48,492 (15.3)	10,410 (19.9)	11,726 (16.3)	11,858 (12.0)	12,273 (▲ 15.3)	3,827 (12.9)	3,615 (▲ 5.2)	3,807 (▲ 14.2)	4,851 (▲ 22.3)	3,398 (▲ 0.4)
新車軽自動車販売台数(台)	37,926 (3.1)	39,708 (4.7)	8,639 (7.7)	9,054 (▲ 0.8)	10,136 (2.2)	8,743 (▲ 26.4)	3,180 (1.1)	2,912 (▲ 20.4)	2,753 (▲ 27.8)	3,078 (▲ 30.1)	2,392 (▲ 20.3)
うち乗用車販売台数(台)	28,780 (0.2)	31,028 (7.8)	6,735 (10.1)	7,069 (3.9)	7,792 (4.1)	7,176 (▲ 23.9)	2,391 (▲ 4.1)	2,379 (▲ 18.1)	2,325 (▲ 23.0)	2,472 (▲ 29.6)	1,824 (▲ 18.8)
新設住宅着工戸数(戸)	9,912 (▲ 2.9)	9,224 (▲ 6.9)	2,332 (▲ 9.6)	2,543 (▲ 12.6)	2,091 (▲ 3.1)	1,893 (▲ 16.2)	720 (23.9)	757 (1.3)	501 (▲ 29.2)	635 (▲ 20.9)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	6,945 (34.1)	7,176 (3.3)	1,560 (▲ 3.0)	1,880 (▲ 0.7)	1,971 (▲ 4.3)		629 (▲ 10.4)	612 (19.1)	655 (25.6)		
有効求人倍率(季調済)	1.39	1.31	1.32	1.27	1.26	1.24	1.25	1.25	1.24	1.22	
新規求人倍率(季調済)	2.30	2.08	2.11	2.06	2.03	1.96	2.00	2.09	1.83	1.98	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	86,008 (13.5)	78,847 (▲ 8.3)	19,224 (▲ 8.1)	19,497 (▲ 9.2)	19,124 (▲ 10.1)	19,576 (▲ 6.8)	6,318 (▲ 9.2)	7,042 (▲ 2.1)	6,315 (▲ 10.2)	6,219 (▲ 8.2)	
名目賃金指数(調査産業計)	(▲ 0.7)	(0.6)	(2.7)	(▲ 1.9)	(1.6)		(0.3)	(0.6)	(2.1)		
実質賃金指数(同)	(▲ 3.7)	(▲ 2.7)	(▲ 0.8)	(▲ 4.9)	(▲ 0.7)		(▲ 1.5)	(▲ 1.3)	(▲ 0.4)		
所定外労働時間(同)	(0.5)	(▲ 11.7)	(▲ 14.0)	(▲ 9.9)	(▲ 11.6)		(▲ 12.6)	(▲ 13.5)	(▲ 3.9)		
常用雇用指数(同)	(▲ 1.1)	(2.6)	(1.5)	(2.1)	(1.2)		(0.7)	(2.6)	(2.6)		
鉱工業生産指数	(0.7)	(▲ 5.1)	(▲ 5.5)	(▲ 8.2)	(0.1)	(▲ 8.1)	(5.3)	(▲ 1.1)	(▲ 11.7)	(▲ 11.0)	
	-	-	<▲ 0.5>	<▲ 1.0>	< 3.5>	<▲ 9.6>	< 5.1>	<▲ 10.0>	<▲ 4.5>	< 0.4>	
生産者製品在庫指数	(5.4)	(1.5)	(5.1)	(▲ 0.1)	(▲ 5.0)	(▲ 12.5)	(▲ 2.5)	(▲ 8.5)	(▲ 13.7)	(▲ 15.4)	
	-	-	< 0.2>	<▲ 1.6>	<▲ 6.6>	<▲ 5.1>	< 0.9>	<▲ 4.4>	<▲ 3.3>	< 2.5>	
企業倒産件数(件)	65	130	22	31	38	30	13	7	12	11	10
(前年同期(月)比)(件)	(▲ 7)	(65)	(7)	(17)	(16)	(▲ 9)	(6)	(▲ 4)	(▲ 2)	(▲ 3)	(7)
民間非居住建築物着工床面積(千㎡)	787 (0.5)	553 (▲ 29.7)	179 (▲ 31.5)	108 (▲ 48.2)	116 (▲ 30.2)	144 (▲ 4.6)	38 (10.1)	36 (▲ 32.2)	20 (▲ 66.4)	88 (122.5)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	▲ 1,462,281	▲ 1,230,435	▲ 287,035	▲ 264,478	▲ 352,234	▲ 324,024	▲ 134,439	▲ 109,587	▲ 106,839	▲ 107,598	▲ 125,906
輸出(百万円)	1,103,427 (21.3)	1,124,612 (1.9)	251,845 (▲ 9.2)	294,930 (1.5)	342,401 (26.2)	275,805 (17.1)	110,930 (34.0)	87,931 (11.7)	93,159 (27.1)	94,715 (13.6)	106,255 (37.0)
四日市港 輸出(百万円)	1,053,981 (22.9)	1,075,841 (2.1)	238,865 (▲ 10.0)	280,751 (▲ 1.2)	333,378 (32.9)	275,750 (23.7)	110,930 (45.5)	87,922 (21.2)	93,114 (27.1)	94,715 (22.9)	101,160 (42.0)
輸入(百万円)	2,649,963 (65.0)	2,449,109 (▲ 7.6)	238,880 (▲ 18.1)	559,409 (▲ 30.2)	694,635 (5.3)	599,829 (▲ 8.6)	245,369 (3.8)	197,518 (▲ 9.7)	199,998 (▲ 5.0)	202,314 (▲ 10.9)	232,162 (14.7)
公共工事請負金額(億円)	1,916 (8.6)	1,844 (▲ 3.7)	530 (▲ 11.8)	563 (▲ 12.2)	334 (17.0)	436 (4.4)	75 (4.2)	52 (38.7)	181 (105.0)	202 (▲ 30.6)	268 (38.8)
津市消費者物価指数	(2.5)	(2.9)	(3.1)	(2.6)	(2.0)	(1.9)	(1.5)	(1.7)	(2.0)	(1.9)	(1.5)
同 (除く生鮮)	(2.3)	(2.7)	(3.0)	(2.4)	(1.7)	(1.8)	(1.3)	(1.4)	(2.2)	(1.8)	(1.2)

<東海3県(三重・愛知・岐阜)>

	2022年	2023年	2023年			2024年	2023年	2024年			
			4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	12月	1月	2月	3月	4月
大型小売店販売額(全店)	(2.0)	(1.6)	(1.1)	(2.6)	(1.3)	(5.0)	(0.5)	(2.9)	(6.0)	(6.2)	
同 (既存店)	(1.7)	(1.0)	(0.3)	(1.9)	(0.9)	(4.7)	(0.0)	(2.2)	(5.7)	(6.5)	
新設住宅着工戸数(戸)	80,112 (▲ 0.5)	73,459 (▲ 8.3)	18,039 (▲ 10.9)	20,059 (▲ 0.6)	18,199 (▲ 10.1)	18,832 (9.7)	5,581 (2.6)	6,012 (2.8)	5,626 (2.6)	7,194 (3.4)	
有効求人倍率(季調済)	1.43	1.39	1.39	1.38	1.36	1.34	1.35	1.34	1.34	1.35	
新規求人倍率(季調済)	2.52	2.39	2.43	2.38	2.33	2.38	2.23	2.44	2.33	2.38	
鉱工業生産指数	(▲ 2.4)	(3.6)	(6.9)	(3.2)	(6.2)	(▲ 4.3)	(7.0)	(2.4)	(▲ 5.5)	(▲ 8.3)	
	-	-	< 4.3>	<▲ 0.9>	< 2.8>	<▲ 9.4>	< 4.8>	<▲ 14.1>	< 0.6>	< 5.0>	
企業倒産件数(件)	534	799	190	190	216	196	74	64	56	76	58
(前年同期(月)比)(件)	(▲ 4)	(265)	(55)	(48)	(74)	(▲ 7)	(24)	(▲ 1)	(▲ 2)	(▲ 4)	(5)
域内外国貿易 純輸出(億円)	67,171	88,899	21,735	26,019	27,057	23,490	9,775	4,954	8,326	10,210	8,290
輸出(億円)	190,724 (12.3)	212,571 (11.5)	50,877 (10.9)	56,261 (15.4)	59,918 (22.9)	52,957 (16.4)	20,437 (19.6)	15,333 (27.5)	17,653 (14.0)	19,971 (10.9)	19,615 (14.9)
輸入(億円)	123,553 (41.9)	123,672 (0.1)	29,142 (▲ 3.8)	30,242 (▲ 11.6)	32,862 (▲ 4.0)	29,468 (▲ 6.2)	10,662 (▲ 1.5)	10,379 (▲ 4.6)	9,327 (▲ 2.6)	9,761 (▲ 11.0)	11,325 (11.1)

各指標における直近の数値